

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号 0840120 __ 001

【1.基本情報】

事業名	斎苑業務委託					
担当部名	市民生活部		担当課名	斎苑		
実施方法	委託(民間)	補助等の種類		実施主体	(株)ビル管理システムほか	
開始・終了年度	平成	18	年度～	年度	根拠法令・関連計画	—

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	斎場の安定した運営					
内容 (手段・手法など)	建物及び設備の保守・管理、受付・案内業務、休日・夜間管理、清掃、駐車場整理等					
事業の 対象	何を	斎苑				
	誰に	利用者				
	どのくらい	13,386人				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	25,350	780	25,194	780	24,804	780
パートタイム会計年度任用職員A	21,424	2,080	24,102	2,340	22,321	2,210
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	46,774	2,860	49,296	3,120	47,125	2,990

(2)物にかかるコスト

直接経費 【直接事業費】 (B)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		116,620	121,226	162,509
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	修繕・工事	6,717	6,093	5,749
	業務委託	58,170	56,810	61,470
	光熱水費	43,444	51,298	88,306
減価償却費 【施設管理】 (C)		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
		0	0	0
計(D)=B+C		116,620	121,226	162,509

(3)総コスト

総事業費(E)=A+D	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	163,394	170,522	209,634

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	73,377	75,690	80,251
その他	0	0	0
計(F)	73,377	75,690	80,251

【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
	90,017	94,832	129,383

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	利用者	利用者	利用者
受益者数	12,886	13,115	13,386
受益者負担額(千円)	73,377	75,690	80,251
受益者負担率(%)	44.9%	44.4%	38.3%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	6,986	7,231	9,666

【7.指標】

アウトプット評価(資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	開館日数		単位	日
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	302	303	303	
実績値	302	303	303	

アウトカム評価(アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	管理不備による休業日数		単位	日
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	0	0	0	
実績値	0	0	0	
達成状況	○(達成)	○(達成)	○(達成)	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	必要不可欠な施設である。 火葬場の経営主体は、原則として地方公共団体とされている。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	受付業務など、民間の専門業者を活用することで、合理的、経済的で 確実な施設運営を行っている。 指定管理者制度を取り入れている地方公共団体もあり、今後検討して いく。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か ※【2】【7】から	高	管理不備を原因とする休業日がなく、確実な施設運営を行えている。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	高	火葬場や式場の料金は、中核市など他都市の料金と比較して妥当な 範囲の金額と考えるが、今後も市民の意見や他市町村の状況等を注 視していく。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いて いるため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充 又は改善することが困難であり、現状のまま 事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や 縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、 事業を取りやめる	現状 維持	今後も合理的、経済的で確実な施設運営を図っていく。

事業評価シート(令和4年度事業評価用)

番号	0840120	__ 002
----	---------	--------

【1.基本情報】

事業名	斎苑残骨灰処理業務委託					
担当部名	市民生活部		担当課名	斎苑		
実施方法	委託(民間)	補助等の種類		実施主体	(株)タカミ	
開始・終了年度	令和	2	年度～	年度	根拠法令・関連計画	
					—	

【2.事業概要】

目的 (何のためか)	残骨灰の処理について、遺族及び市民感情に配慮し、適正に行うとともに、残骨灰に含まれる有価物は市に返還させ、売却することにより歳入の確保を図る。					
内容 (手段・手法など)	岐阜市斎苑から発生する残骨灰を、遺族及び市民感情を損なわないよう配慮し、最終供養地に至るまでの一連の作業を適正に処理するとともに、分別処理工程において生じた有価物を抽出し、市に返還させ、売却することにより歳入の確保を図る。					
事業の 対象	何を	斎苑				
	誰に	利用者				
	どのくらい	13,386人				
令和4年度からの変更点 (継続事業の場合)	—					

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	令和2年度決算額		令和3年度決算額		令和4年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正職員	975	30	969	30	954	30
パートタイム会計年度任用職員A	0	0	0	0	0	0
パートタイム会計年度任用職員B	0	0	0	0	0	0
計(A)	975	30	969	30	954	30

(2)物にかかるコスト

		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
直接経費 【直接事業費】 (B)		1,349	1,350	1,419
直接事業費の 主な内訳		令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
項目	業務委託	1,349	1,350	1,419
		0	0	0
		0	0	0
減価償却費 【施設管理】 (C)		0	0	0
計(D)=B+C		1,349	1,350	1,419

(3)総コスト

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
総事業費(E)=A+D	2,324	2,319	2,373

【4.収入】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
収入内訳			
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
市債	0	0	0
使用料・手数料	0	0	0
その他	0	57,989	73,000
計(F)	0	57,989	73,000

【5.収支】

	令和2年度決算額(千円)	令和3年度決算額(千円)	令和4年度決算額(千円)
市負担額一般 財源(E-F)	2,324	-55,670	-70,627

【6.コストバランス】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
事業受益者	利用者	利用者	利用者
受益者数	12,886	13,115	13,386
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	180	-4,245	-5,276

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))

活動指標名	残骨灰の量		単位	t
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	14	17	19	
実績値	15	19	20	

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)

成果指標名	返還を受けた有価物の売却益		単位	千円
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標値	3,500(令和3年度売却予定)	3,500(令和4年度売却予定)	50,000(令和5年度売却予定)	
実績値	57,989(令和3年度売却)	7,3000(令和4年度売却)	-	
達成状況	○(達成)	○(達成)	—	

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 ①目的が市民・社会のニーズに合っているか ②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県) ③類似の事業はないか、あれば当該事業との 統廃合はできるか ※【1】【2】から	高	必要不可欠な施設である。 火葬場の経営主体は、原則として地方公共団体とされている。 類似事業はない。
効率性 ①費用対効果 ②他に効率的な方法はないか (広域・民間活用・市民協働など) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	返還を受けた有価物の売却益を活用し、安定した施設運営が図れる見込みである。 他都市の対応状況を参考にしながら、今後検討していく。
有効性 ・期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込みか ※【2】【7】から	高	返還を受けた有価物の売却益を活用し、安定した施設運営が図れる見込みである。
公平性 ・受益者及び受益者負担は適正か ※【2】【6】【7】から	中	業務委託料については、今後も他市町村の状況等を参考に、適正な積算金額の設定に努める。
〔総合評価〕 ・拡充：目標を達成しており、良い状態が続いているため、より良くしていく ・現状維持： 様々な要因により、事業担当課の裁量で拡充又は改善することが困難であり、現状のまま事業を継続していく ・改善：目標を達成できておらず、事業の統合や縮小、実施内容の変更など、見直しを図る ・廃止：実施予定期間満了などの理由により、事業を取りやめる	現状維持	遺族及び市民感情を損わないよう配慮し、適正に残骨灰の処理を行っていく。